

LESSON 24

提供されたシステム移行プロジェクトのタスクリストについて、すでに完了しているタスクを除外し、現在アクションが必要な「未完了タスク（遅延・進行中・未着手）」を対象に緊急度/重要度マトリクス（アイゼンハワー・マトリクス）で分析します。

ここでは、タスクの「重要度」を縦軸に、「優先度」や「遅延状況（後続への影響）」を実質的な緊急度として横軸に分類しています。

第1象限：重要かつ緊急（直ちに対応が必要なタスク）

重要度が「高」であり、かつ大幅に遅延している、あるいは本番移行に向けて現在進行中のタスクです。ここにある遅延タスクはプロジェクト全体の致命的なブロック要因になっています。

- ・ T010 既存帳票レイアウト確認（遅延52日）：中村氏の不在により停止中であり、後続の帳票出力テストを妨げています。
- ・ T032 新旧コード対照表作成（遅延75日）：これも中村氏不在で完全停止しており、ユーザー受入試験（UAT）に必要なため非常に深刻です。
- ・ T015 ユーザー受入試験（UAT）（遅延8日）：操作マニュアルやコード対照表の未完成により開始できていません。
- ・ T022 ユーザー研修（第1回）（遅延16日）：マニュアル未完成で延期されています。
- ・ T037 内部監査対応資料作成（遅延12日）：コード対照表（T032）がないため作成不可に陥っています。
- ・ 進行中の重要タスク: T034 移行スケジュール最終確認、T040 IT部門向け運用引き継ぎ、T045 移行データ整合性検証など。



第3象限：緊急だが重要ではない（錯覚の象限・本来は委譲すべきタスク）

リスト上の重要度は「中・低」に設定されていますが、すでに遅延が発生しており、他業務への影響から緊急で対処しなければならないタスクです。

- ・ T008 操作マニュアル作成（初版）（遅延28日）：重要度「中」ですが、担当者の育休・後任未定により放置されています。UAT（T015）や研修（T022）の開始を妨げる最大のボトルネックとなっており、実質的な最優先対応事項です。
- ・ T030 本番移行後サポート体制確認（遅延5日）：重要度「中」ですが遅延しています。
- ・ T048 旧システム保守契約終了手続き：重要度は「中」ですが、優先度が「高」に設定されている未着手タスクです。

第2象限：重要だが緊急ではない（計画的に実行すべきタスク）

重要度は「高」ですが、先行タスクの完了を待っている状態の未着手タスク群です。第1・第3象限の火消しが終わった後にスムーズに着手できるよう準備が必要です。

- ・ T018 帳票出力テスト：T010の完了待ちで未着手です。
- ・ 本番移行関連の未着手タスク：T019 本番移行実施、T020 移行後モニタリング（初週）、T021 旧システム停止手続き、T023 ユーザー研修（第2回）など。

第4象限：重要でも緊急でもない（後回しでよいタスク）

優先度および重要度が「中」または「低」であり、プロジェクトの終盤や移行後に実施予定の未着手タスクです。現時点ではリソースを割く必要はありません。

- ・ T035 旧システムデータアーカイブ
- ・ T036 システム移行報告書作成
- ・ T038 関係部署への移行完了通知
- ・ T046 コスト実績集計・報告
- ・ T047 移行後業務フロー確認
- ・ T049 プロジェクト振り返り会議
- ・ T050 最終成果物アーカイブ

 分析からのインサイト 現在のプロジェクトは、中村氏が担当するタスク（T010, T032）と、担当者不在のマニュアル作成（T008）という「特定人物への依存」と「リソース不足」によって完全にストップしています。まずはこれら第1・第3象

限の遅延タスクに新しい担当者を割り当てるなどのリソース再配置が急務です。

この分析結果をもとに、プロジェクトメンバー向けの共有用としてスライド資料（Slide Deck）やレポートを作成しましょうか？